

日本の行事と植物

端午の節句

風かおる五月の青空に泳ぐ鯉のぼり。その由来をひもとくとき、親が子を慈しむ心のさまざまな形が千年の時を超えて、今日まで伝わっている事を実感します。

さて、端午の節句に欠かせないのが「香菖蒲(かおりしょうぶ)」です。香りが強く、その香りで邪気を祓うと考えられていました。また、「尚武」と書けば「武を尚(たつと)ぶ」に通じ、強い男の子になるようにという願いがこめられるからです。

「菖蒲」が手に入らない時はゼラニウムで。

ゼラニウムというと日本のしつらいにふさわしくないような気がしますが、別称の「紋天竺葵(もんてんじくあおい)」と呼ぶと印象が変わるから不思議です。

ゼラニウムはどんな日照が続いても根が枯れないくらい生命が強いので、強い子になってほしいとの子孫繁栄の願いを託します。

(文 ; M)



(写真;16 5/13 花壇)



5月5日、どの店にも端午の節句のショウブがおかれていた。京王線駅前フラワーショップにて。
(写真上)

